



記事

◇ 市民と専門家が意見交換しました！ ～「第9回 宮崎海岸市民談義所」開催報告～

国土交通省では宮崎海岸の砂浜の保全について、市民がお互いに納得できる手段を含めた方向性を見いだすことを目的として「宮崎海岸市民談義所（以下、「談義所」）」を開催しています。

第9回談義所〔8月22日（日）開催〕では、市民・関係行政に加え海岸工学や海岸の侵食対策に詳しい専門家が参加して、三者（市民・専門家・関係行政あわせて約90名が参加）がいっしょに海岸を歩いた後室内で談義を行いました。本号ではその内容について報告します。

なお、紙面に内容のすべてを掲載できないため、具体的内容（資料、議事概要など）については海岸よろず相談所（連絡先は裏面に記載）にご連絡下さい。また、宮崎河川国道事務所ホームページ（アドレスは裏面に記載）にも掲載しております。

三者と一緒に海岸を歩き、現地とその周辺状況を把握しました！

宮崎海岸の現地とその周辺状況の把握は、①一ツ瀬川河口左岸（新富町側） ②石崎浜 ③フェニックス自然動物園東側の海岸 ④一ツ葉有料道路パーキングエリアで行われました。

移動中のバスの中や各現場で、関係行政から航空写真などを用いて海岸の特性・自然環境・海岸利用・侵食対策の状況について説明を行いました。さらに、普段海岸を利用や調査したり、海岸清掃などの市民活動を行っている市民の方々から、普段感じていること、アカウミガメやコアジサシの生態や今年の繁殖状況、市民活動への思いなどについて説明があり、さまざまな質疑応答や意見交換が行われました。その後出発時間までの間、参加者は思いおもいに海岸を観察したり会話したりしていました。

ここでは各箇所での市民の方々の説明内容の一部を紹介します。

①一ツ瀬川河口左岸（新富町側）



- アカウミガメの産卵地、コアジサシの繁殖地となっている。
- 今年は佐土原町側の砂地がコアジサシの繁殖地。
- アカウミガメの産卵が例年の1.5倍程度。

②石崎浜



- 「宮崎の海岸をみんなで美しくする会」では、今年3月と5月にビーチクリーンを実施。
- 石崎浜の海岸利用マナー向上のため、多様な立場の人が参加して幅広い意見を出している。

③フェニックス自然動物園東側



- サーフィンに適した場所が波向きに対応して移動しており、砂の移動と関係があると考えている。
- 砂の移動する速度は速く、とどまる事が難しいと思う。
- たまった砂を循環させることが重要。

④一ツ葉有料道路パーキングエリア



- 檣浜漁協はシーガイアができる前に地引き網をやっていた組合。
- 去年、現場にきて砂がないので驚いた。
- 昔の浜の状態を残したい。
- 人工的な方法はできるだけ避けた方法で対策してもらいたい。

三者で意見交換を実施しました！

現地とその周辺状況把握の後、佐土原総合文化センター小ホールにて三者で意見交換を行いました。

意見交換に先立ち、専門家から当日訪れた各箇所の振り返りとこれまでの宮崎海岸の侵食対策に関する技術的な検討内容について説明の後、専門家との意見交換を行いました。

本紙では専門家の説明内容の要旨を紹介した後、意見交換の内容の一部を紹介します。

専門家の説明内容（要旨）

◇宮崎海岸の侵食がどのような条件で発生しているか（侵食のメカニズム）について
左下の図が示され、わたしたちがより安全に、より豊かに生活をするために行ってきたさまざまな要因が重なって、海岸へ供給される砂の量が減ったり、海岸から流出する砂の量が増えたりした結果であると指摘しました。

◇対策の方向性とその課題

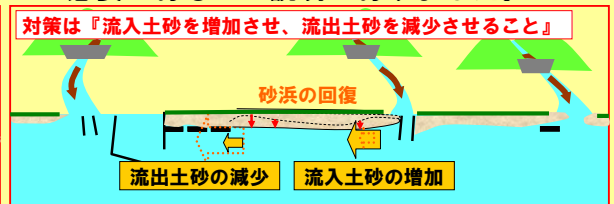
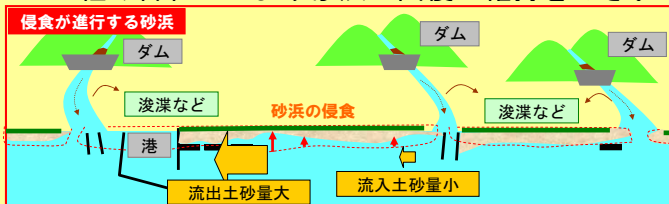
その対策として右下の図が示され、対策は「流入土砂を増加させ、流出土砂を減少させること」が必要であるとの説明がありました。

しかし、山から川を通じて海に土砂が達するには非常に長い時間がかかること、河川に土砂が堆積することによる洪水の発生や濁水などによる農業・漁業への影響などの課題があると指摘しました。

◇宮崎海岸における対策

中長期的な取り組みとして、山地、河川および海岸部における土砂の流れを円滑化し、宮崎海岸に供給される土砂量を増やす取り組みを実施すること。

緊急的な取り組みとして、河川や港湾などの掘削土砂を宮崎海岸に供給し土砂量を増やすこと、または流れにより移動する砂を制御することにより宮崎海岸から流出する土砂量を減らすことの組み合わせにより砂浜の回復・維持をめざすことが必要であるとの説明がありました。



意見交換の内容

- 全国の海岸の中における宮崎海岸の特徴、状況について
 - 日本では海岸侵食が全国的で毎年1.6km²の国土が失われている（宮崎県立平和台公園の約2倍の広さ）との報告がある。
 - 宮崎海岸は長大な砂浜海岸であり、類似する海岸に鹿島灘・仙台海岸・石川海岸などがある。
 - 海岸侵食の原因は、山の方からの影響もあるのではないかとそのとおりである。土砂の移動が円滑となる取り組みが海岸の侵食対策につながる。
 - 台風が怖い。防護することを考えて欲しい。
 - 対策を実施する上で被害を防護することは基本である。その上で、海岸法に沿って環境と利用を調和させた海岸保全を行っていくという考え方である。
- 意見交換の最後に、専門家から対策の3つの視点が示されました。
- ①北からの砂供給を増やす。
 - ②南への流出量を減らす。
 - ③急激な侵食を防ぐ。

市民意見を確認する専門家



市民と意見交換する専門家



海岸に関するご相談やご意見・ご質問などありましたら

○海岸よろず相談所○

【国土交通省 宮崎河川国道事務所 宮崎海岸出張所】

にご連絡下さい。

TEL：0985-62-7050/FAX：0985-62-7051

〒880-0211 宮崎県 宮崎市 佐土原町 下田島 9515-6

【旧 宮崎地方方法務局 佐土原出張所】

※宮崎河川国道事務所ホームページ

<http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>

※海岸情報（宮崎海岸Publication）

<http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/html/kasen/sskondan/index.html>

